

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成21年6月25日(2009.6.25)

【公表番号】特表2002-509706(P2002-509706A)

【公表日】平成14年4月2日(2002.4.2)

【出願番号】特願2000-540746(P2000-540746)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

G 0 1 N 33/574 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

C 1 2 Q 1/68 A

G 0 1 N 33/50 P

G 0 1 N 33/574 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年5月7日(2009.5.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 肺細胞の腫瘍状態の診断における補助方法であって、

肺細胞サンプルにおいて、過剰発現した癌原遺伝子 b - m y b の存在を検出する工程、
を含み、前記過剰発現が前記肺細胞の腫瘍状態を示していることを特徴とする方法。

【請求項 2】 前記過剰発現した b - m y b 癌原遺伝子の存在を、前記 b - m y b 癌原遺伝子から転写された m R N A の量を検出することにより決定する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 前記検出を、配列：TGCTGCCCTG（配列番号 1）又はその相補物を含むプローブ又はプライマーを用いてサンプルを探索することにより決定する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】 前記過剰発現した癌原遺伝子の存在を、m R N A の逆転写により生成した c D N A の量を検出することにより決定する、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】 前記過剰発現した癌原遺伝子の存在を、前記癌原遺伝子によりコードされるポリペプチド又はタンパク質の量を検出することにより決定する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】 前記腫瘍状態が非小細胞肺癌である、請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の方法。

【請求項 7】 肺細胞の腫瘍状態を逆転するための潜在的な治療薬 を同定する方法 であって、

前記肺細胞が癌原遺伝子 b - m y b の過剰発現により特徴付けられ、
前記肺細胞を含むサンプルと潜在的な薬剤とを接触させる工程、及び、
前記肺細胞の腫瘍状態の逆転をアッセイする工程、
を含み、
前記腫瘍状態の逆転が前記潜在的な薬剤を潜在的な治療薬として同定する
ことを特徴とする方法。

【請求項 8】 b - m y b の存在を検出するためのプローブ又はプライマーであって、
配列：TGCTGCCCTG（配列番号 1）又はその相補物を含むことを特徴とするプローブ又は
プライマー。

【請求項 9】 ポリヌクレオチドが 10 ～ 100 の長さを有する、請求項 8 に記載の
プローブ又はプライマー。

【請求項 10】 ポリヌクレオチドが 50 ～ 100 の長さを有する、請求項 8 に記載
のプローブ又はプライマー。

【請求項 11】 ポリヌクレオチドが 50 ～ 75 の長さを有する、請求項 8 に記載の
プローブ又はプライマー。

【請求項 12】 請求項 8 ～ 11 のいずれかに記載のプローブ又はプライマー又はこ
れらの相補物からなる固相担体。

【請求項 13】 請求項 1 に記載の診断方法における使用のためのキットであって、
固体担体に固定化した請求項 8 ～ 11 のいずれかに記載のプローブ又はプライマの 1 つ
以上、及び、

肺細胞の腫瘍状態の診断における補助に使用するための説明書、
を適切な包装中に含むことを特徴とするキット。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

表 2. NSCLC において過剰発現した遺伝子のノーザンブロット分析

配列 番号	タグ配列	T/N	遺伝子名	受託番号	肺	小 腸	肝 臓	肺腫瘍細 胞系 (n=9)
5	TGTACCTGTA	133/3	α -チューブリン	K00558	+	+	+	9*
6	GCTTGAATAA	53/1	EST1	AA101952	+	+	+	9
7	ATGCAGCCAT	48/5	オルニチンデカル ボキシラーゼ	M81470	nd	+	+	9
8	CTCCTGGGCG	37/0	NB-1	M58026	-	-	-	0
9	CCAGGGGAGA	37/1	インターフェロン- α -誘導遺伝子	X67325	+	-	-	6
10	CTGAGACGAA	34/0	BTF3b	X53281	+	+	+	8
11	GATAGCACAG	32/0	IGF結合タンパク質	L27560	nd	-	-	1
12	TATCTGTCTA	30/2	EST2	D29035	+	+	+	9
13	TAATACTTTT	20/0	開始因子2関連タン パク質	U13261	-	-	-	6
14	CAATAAAATT	18/0	EST3	W72411	-	-	-	1
15	AAGGCTGGAA	16/0	EST4	AA663132	-	-	-	0
3	TGGCCCCGACG	15/0	8-オキソ-dGTPアー ゼ	D16581	-	+	-	9
16	TTCTGTGCTG	15/0	セレノホスフェー ト合成酵素2	U43286	+	+	+	9
2	CAGTCTAAAA	15/0	PGP9.5	X04741	-	-	-	8
1	TGCTGCCCTG	13/0	B-myb	X13293	-	+	-	9
17	ATCCTGTAGG	13/1	細胞アポトーシス 感受性遺伝子	U33286	+	+	+	9
4	TAATACTTTT	20/0	P67	U13261	-	nd	nd	6

T/Nは、腫瘍における過剰発現のフォルド（fold）を示している。

「+」：ノーザンブロットにより検出された転写。

「-」：ノーザンブロットにより検出されなかった転写。

nd：検出されなかった。

*は、試験した9つの細胞系の中で、検出可能なメッセージを有した細胞系の数を示している。